



を横断し、従来交通機関に恵まれなかった丹波奥地と、京都・大阪方面との交通はいちじるしく便利になった。

沿線には天引峠や琉璃溪の景勝地がある。(西山清氏)

**エンジン・ブレーキ** (英) engine brake 内燃機関において機関と推進軸を直結し、推進軸で逆に機関を回転させてブレーキ作用を得ることである。この方法によるとシリンダに空気を圧縮するに要するピストンのポンプ抵抗や、その他伝達装置の機械抵抗のため、車両の速度は次第に減少するのである。

エンジンブレーキはこのように運動のエネルギーや位置のエネルギーを、機関のポンプ作用と伝達装置等の機械抵抗に消費させる目的のものであるが、

1 区間およびキロ程

園篠本線	園部河原町・篠山口	34 km
	八上・般若寺	1
	下立町・瀬利	4
	篠山口・母子	9
	篠山口・味間奥	4
園篠南線	福住・本篠山	12
	福住・西能勢	17
	八上新・後川下	11
大芋線	細工所・大芋	15
	大芋・市野々	3
畑線	和田・畑山	6
	火打岩・鑄市谷	2
谷川線	篠山本町・谷川	17
	大山下・西古佐	3

2 沿革

園篠本線	原山口・福住	昭 9・3・28 開業
	本篠山・福住	昭 9・7・11
	園部・原山口	"
	般若寺・八上	昭 23・3・23
	篠山口・味間奥	昭 26・4・11
	下立町・瀬利	昭 27・1・25
	篠山口・母子	昭 32・3・25
園篠南線	福住・本篠山	昭 25・7・1
	福住・西能勢	昭 29・3・16
	八上新・後川	昭 26・5・5
	後川・後川下	昭 28・9・5
大芋線	細工所・大芋	昭 15・11・1
	大芋・大朴	昭 27・1・25
	大芋・市野々	"
畑線	火打岩・畑山	昭 19・3・21
	火打岩・鑄市谷	"
	和田・火打岩	昭 24・2・15
谷川線	篠山本町・谷川	昭 28・8・11
	大山下・西古佐	昭 32・3・25

3 営業範囲 旅客・手小荷物・貨物および団体貸切の取扱をしているが、一部貨物を取扱わない区間がある。

4 使命 鉄道の先行および輸送力補強を使命とするほか、沿線地方の産業文化の発展助長をも使命としている。

5 特長 この路線は山陰本線園部と福知山線篠山口・谷川を結ぶ本線とその支線からなり、園福線とともに丹波高原

ディーゼル機関ではポンプ作用を十分期待することができず、機械抵抗のみが有効な因子たりうる。しかし一般に機械的抵抗の大きな機関では好ましくないで、結局ディーゼル機関のエンジンブレーキは有効でない。ただエンジンブレーキの動力を大きくするためには、機関吸気管にしぼり弁を設けて吸入圧力に負荷圧をもたせると割合大きなブレーキ効果を得ることはできる。この点ガソリン動車では吸気経路に気化器を有し、加減弁やしぼり弁によって負圧を得ることができるから、はるかに有効なブレーキ効果が期待できる。

またガスタービンではタービンによって駆動される空気圧縮機を付属させているので、きわめて有効なポンプ作用を得ることができるから、エンジンブレーキとしてはガソリン機関より高いブレーキ効率を有するものである。

内燃機関でエンジンブレーキを使用するに当たっては、機関回転数が許容最大回転数を超過することのないようにとくに注意する必要がある。

蒸気機関車のエンジンブレーキも同じことで、運転中脇路弁を閉塞(へいそく)したまま惰行すれば、ピストンはポンプ作用による抵抗をうけて減速する。この場合逆転機を進行方向の逆向きに引いて、加減弁を開けばより積極的なエンジンブレーキを得ることができる。ただし散砂等によって空転をしないように注意する必要がある。(山田秀三)

**えんせんかさい 沿線火災** 沿線における運転に関係ある場合の火災。機関車・車内取付ストーブまたは暖房車等の散火もしくははたきがらによるもの、またはその疑いのあるものまたは火災のため列車運転休止・折返し運転または遅延を生じた場合および車両の火災をいう。(嶋原吉之祐)

**えんせんじんこう 沿線人口** ある1つの駅を中心として一定数の客貨が移動している場合に、地勢や距離によって自然にその移動の範囲が定まるもので、これをその駅の駅勢範囲という。このようにして定められた駅勢範囲内に在住する人口を各駅について集計したものを、これらの駅の所属する線の沿線人口という。

またバスなど他の運輸機関が関係駅に連絡している場合に、その駅を利用する部落の人口であっても、その大部分が駅までつねにバスを利用しているような遠距離にあるものは沿線人口から除外する。しかし乗車人員を推定する場合は乗継人員として考慮する。(三ツ松 進)

**えんちやくしょうめい 延着証明** 鉄道は運送のために受託した貨物・小荷物を所定の引渡期間内に荷受人に引渡す義務を負っているが、この期間内に鉄道の責に帰すべき事由により引